

# グループワーク記録

## 【 女性グループ 】

### 目指す姿について

- ・ライフステージの変化に伴って、生き方の選択肢が狭められない、それぞれの思い描く生き方ができる社会。→目指す姿に決定
- ・女性が自分らしい妊娠出産や健康長寿をめざせるよう、体格・喫煙・骨粗しょう症に関連する取組を支援できる宇治市。
- ・固定的な性別イメージが取り払われるとともに男性も含め誰もが女性の健康について理解と共感ができる社会。
- ・子育ても介護もみんなで支えあい♡助けあい♡それがあたりまえの風土や文化をつくっていきたい。
- ・大半の女性は子ども優先の生活となり、自分自身の健康に対する優先度は低いのが現状である。妊娠中から子育て期の継続的なケアが必要だと思う。特に就業していない女性は健診など受ける機会がほとんどないと思われるので受ける仕組みが必要だと思う。

### 目指す姿を阻害するもの（課題）は何か

#### ライフステージ別

##### 【若者】

- ・家庭・学校での性教育が不十分である。
- ・地域とつながっていない人が多い。
- ・特に女性はリア友（実際に会う友達）が少ない。
- ・やせた方がいい風潮がある。
- ・自分自身を大切にできていない。
- ・自己肯定感を持ってない。（→幼少期の家庭環境も要因の1つかもしれない。）

##### 【更年期】

- ・更年期について職場の理解がない。
- ・更年期の体調不良。
- ・更年期について知る機会がない。（思春期～出産までのことは学校や産院で学ぶ機会はあるが）

##### 【高齢期】

- ・高齢女性の経済的な困窮。

##### 【仕事】

- ・女性の健康面等に対する職場の理解が少ない。
- ・女性の仕事継続への家族の理解が少ない。

##### 【パートナーとの関係】

- ・パートナーの理解がない。
- ・女性側から伝えることが恥ずかしいのか、体に対する実際の情報（生理周期等）を教えてもらえない。
- ・男性の女性への（健康に関する）知識不足がある。
- ・男女の役割等価値観の押し付けがある。

**【自己管理能力】**

- ・ 家族を大切にして家事や育児を抱え込み、自分の健康等を大切にできていない。
- ・ 主婦が健診を受ける機会がない。
- ・ 女性自身の意識が乏しい。

**【経済面】**

- ・ 経済的に弱い。

**【全般】**

- ・ 同性内でも世代間ギャップがあり、お互いの立場の理解が難しい。

**市民、関係団体、行政それぞれの立場でどのような取り組みが必要か****【若者】**

- ・ 教育（学校、社会、家庭）での正しい知識の普及。
- ・ 親自身が地域とつながることで、子どもも地域とつながることができる。
- ・ 地域だけでなく、多様な方法でつながりを持つ。

**【パートナーとの関係】**

- ・ 学生時代から男女とも同じ性教育を受ける。
- ・ 女性から男性への教示を行う。
- ・ 男女の役割を押し付けない。
- ・ 男女の役割については2人で話し合って決める。

**【仕事】**

- ・ サポート体制の充実。
- ・ 男性の産育休取得の推進。

**【自己管理能力】**

- ・ 健診を受けること（託児付き等）ができる環境整備を行う。
- ・ 自分を一番に考える。

**【更年期以降】**

- ・ 居場所づくり。
- ・ 中高年齢期に性差の違いを学ぶ機会づくり。
- ・ 社会参画・それぞれが社会で役割を持ち続ける・社会とのつながりを持つ。
- ・ 社会全体での理解や支え。
- ・ 職場で研修会を行う。

**【グループワーク構成員】**

- ・ 福田委員
- ・ 日野委員
- ・ 京都府山城北保健所 鈴木（代理出席）
- ・ 人権環境部副部長 前田（代理出席）
- ・ 事務局

## 【 子どもグループ 】

### 目指す姿について

- ・ **地域ぐるみで子を見守り・育てる。**
- ・ 子が自ら育つような様々な経験ができる。
- ・ 子自身、保護者等があるままの子の状況を受け入れることができる。
- ・ **地域全体で子どもを見守る社会。**  
**コミュニティ活動の促進、地域住民の交流によって住民同士の顔を知ることができ、それが地域全体を見守ることにつながる。→目指す姿に決定(2委員の意見が同票で似ていたため両意見を採用)**
- ・ いじめ、虐待、犯罪、事故の心配がなく、子どもが安心して遊べる環境づくり。
- ・ 高齢者が現役世代に代わって子ども達に健康教育(ヘルスリテラシーを身に着ける)ができるよう行政がサポートする。
- ・ 運動習慣+健康的な生活習慣、規則正しい生活(早寝早起き)、食習慣(3食・食育)「しなやかで健やかな身体の育成」
- ・ 共働き世帯の増加に伴い、子ども達へ3食バランスのとれた食事を摂ってもらう機会を増やす。

### 目指す姿を阻害するもの(課題)は何か

#### 【地域とのつながりの希薄化】

- ・ 住民同士の顔が分からない、隣近所に誰が住んでいるか分からない。  
(共働き、デイサービスに通所している等)
- ・ 昔は隣近所で協力する行事が多かったが、個人情報保護の観点も厳しくなり、つながりが希薄化。
- ・ 地域で協力しないといけないこと(行事等)が減った。
- ・ SNS やスマートフォンの普及に伴い、リアルな人とのつながりが希薄。

#### 【心理的要因】

- ・ おせっかいを受け入れられない社会。
- ・ 当事者意識の不足。活動参加することへの心理的な障壁。
- ・ 警戒心が強い。

#### 【環境的要因】

- ・ 子どもが集まる場所がない。のびのび遊べる遊び場や公園が少ない。外遊びの減少。  
(公園が小さい、草だらけで管理されていない、ボール遊び禁止等)

#### 【マンパワー不足・高齢化】

- ・ 少子高齢化や共働きなどで、見守りやボランティア活動のマンパワーがない。  
(参加する人がいつも同じ)
- ・ 核家族の増加。
- ・ 遊び場などにおいて大人の目が少なくなっている。

#### 【安全な社会】

- ・ 防犯システムの充実。SNS やスマートフォンの普及。
- ・ 見守り活動が必要ない安全な環境。

## 市民、関係団体、行政それぞれの立場でどのような取り組みが必要か

- ・ 登下校時間に散歩をする人やお店、市役所の職員が「ながら防犯・ながら見守り」を実施。  
特に下校時間は学年によりばらつきがあるため、平日夕方の見守り体制づくり。  
(依頼されると参加しにくい、気軽な気持ちでできる取り組みが必要。健康づくりと地域づくり、防犯とも絡める)  
(登下校の時間帯に合わせて買物がてら「ながら見守り」ができるような工夫。野菜や食材の割引などあればその時間に外出する人が増え、お得感もありながら地域で見守りができる仕組みづくり)
- ・ 健康づくりを兼ねた地域で見守りができる仕組みづくり。  
(子どもの登下校の時間に合わせて地域でラジオ体操や、おうじちゃま体操を実施。)
- ・ 広い公園などボール遊びや犬の散歩などができ、子どもをはじめ多世代が集まる環境づくり。
- ・ 学校の体育館の開放など雨の日でものびのび遊べる環境づくり。
- ・ 自然と多世代が交流できる場づくり。(雨天でも集まることが可能)
- ・ 授業や育成学級、コミュニティースクールなど、地域住民を講師に招くことで、子どもと顔がわかるつながりづくり。

### 【グループワーク構成員】

- ・ 中村委員
- ・ 佐藤委員
- ・ 上林委員
- ・ 村下委員
- ・ 福井委員
- ・ 波戸瀬委員
- ・ 事務局

## 【 働き世代グループ 】

### 目指す姿について

- ・すべての人が「健康でいたい」と思える、人生に希望をもてる。
- ・たばこを吸いたくならないまち。
- ・すべての人に「出番」「役割」をもち、収入がある。→目指す姿に決定
- ・1日3食、規則正しく食べることを基本として、栄養バランスのとれた食事をすることの重要性を理解し実行することができる人が増えること。
- ・身体の造形、組み合わせを知る。
- ・お辞儀の丁寧なやり方をするとき身体のどの部分が動き、無理な体勢にはしていないかなどを確認する。
- ・食事を大切にして、免疫が落ちない食事をする。
- ・スポーツのできる環境の整備。
- ・2024年問題の軽減対策。
- ・安全な社会、身体、心、生きたいと思う強さ。

### 目指す姿を阻害するもの（課題）は何か

#### ●働き続ける仕組みの不足

- ・介護による離職。
- ・女性は社会に出てすぐに、結婚や出産などで働きにくい状況になる。
- ・子育てを見守る人がいない。
- ・子育て支援不足。
- ・子育てが落ち着いてからの再就職が難しい。（採用枠が少ない）
- ・日々に追われている割に、収入が少ない。
- ・働きにくいルール。

#### ●雇用側の受け入れ力

- ・失敗に対する評価。
- ・異質を排除する考え方。

#### ●個人のスキル

- ・自己アピールできる場がない。
- ・自己アピールが苦手なこと。
- ・自分のスキルが役に立つことに気づいていない。

#### ●職場の環境

- ・できないことを言える職場でない。

- ・仕事が楽しいと思える職場作り。
- ・身近に働けるところがない。交通が不便。
- ・仕事に対する評価の基準に問題あり。

#### ●個人の健康

- ・病気のコントロールができない。
- ・あきらめ、スティグマ

#### ●社会の問題

- ・働きたいのに働けない人の原因のデータが分かっていない。

### 市民、関係団体、行政それぞれの立場でどのような取り組みが必要か

#### ●働き方の多様性を受け入れる仕組みづくり

- ・多様な人がいる職場にする。(障害者や外国籍の人など)
- ・職場の男女の割合を平等に。
- ・ひとりひとりの意識改革。柔軟な考え方。

#### ●自由な働き方の仕組み

- ・コロナ禍で新たな働き方が思ったよりできた。今後も新しい働き方を見つける。(在宅ワークなど)
- ・一度離職しても、いつでもまた働ける社会。

#### ●職場での健康づくり

- ・会社にキッチンカー(若葉の会が出向いて健康教育など)
- ・会社に目安箱。
- ・会社で健康支援。

#### ●子どもへのできること

- ・子どもの頃からどんな職業や仕事があるのかを学び、可能性を広げておく。

#### 【グループワーク構成員】

- ・近藤委員
- ・佐久間委員
- ・西村委員
- ・長岡委員
- ・事務局